

賀川豊彦の妻ハルを紹介

手紙など100点 業績振り返る

中央区

「生協の父」と呼ばれる社会活動家賀川豊彦の妻、賀川ハルを紹介する企画展が、中央区吾妻通5の賀川記念館で開かれている。没後35年となるハルの命日5日に開幕し、実際に使っていた日用品、手紙、日記帳など約100点が並ぶ。

ハルは、25歳で豊彦と結婚。「新川スラム」と呼ばれていた神戸の貧民街で病人の手助けや子どもの世話をしたり、関東大震災の被災地で救護を行ったりと、夫婦でさまざまな活動に取

会場には賀川ハルの著書や日記帳、夫豊彦に宛てた手紙などが並ぶ＝賀川記念館



り組んだ。妻としても、ともに働く者としても夫を支えたハルは、その業績に多大な影響を与えたとされる。またハ

ル自身も、随筆の執筆や女性解放運動への参加など、精力的に活動した。5日には、特別企画とし

て、同館の語り部らがハルの生涯や功績を、パワーポイントで紹介。また、豊彦の孫で東京女子医科大助教の富沢康子さんと、東京基督教大の准教授でハルを研究する岩田三枝子さんによる対談もあった。

同館の参事西義人さん(74)は「ハルは夫の陰に隠れがちだが、知れば知るほどその偉大さが分かる。展示されている日記や手紙、写真を通してその人柄にふれてほしい」と話した。

31日まで。午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで)。入館料は一般300円、中高生、大学生100円。月曜休館。賀川記念館 ☎078・221・3627 (勝浦美香)